

平成25年度 学校評価 学校関係者評価

兵庫県立東灘高等学校

平成25年度重点項目	部・学年等	具体的取り組み	評価指標 →実施状況(最終報告)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係者 評価委員の 提言
〔1〕基礎学力の定着						
1	教務部	・学校設定科目ブラッシュアップの充実・改善(学力向上プロジェクト委員会)	数学、英語の基礎力の定着に取り組む。第1学年次に実施するブラッシュアップⅠとの継続性を持ったブラッシュアップⅡの学習内容を検討する。	ブラッシュアップ数学、英語共に全員6級合格、1級合格者40人以上を目指す。 →1級合格者は、1学期実施のBU数学では、10回終了時点で37人、11回終了時点でのべ72人であった。2学期実施のBU英語では、10回終了時点で83人であった。	B	級レベルの設定を再度見直し、各級での授業展開が間延びしないような方法を検討する。来年度始まるブラッシュアップⅡの授業がスムーズに展開するよう計画を進める。
		1学年	小中学校の復習をし、数学、英語の基礎力の定着に取り組む。	ブラッシュアップ数学、英語共に全員6級合格、1級合格者40人以上を目指す。 →2学期は、長欠生徒以外全員合格	A	高校で学ぶための基礎の育成に有効
2	生徒指導部	・授業規律の徹底(サポート体制の確立)	年間を通して、授業規律の期間を設けて、全職員で取り組む。	指導対象者を期間で5人以内にする。 →指導対象者は期間内で10人平均であった。	C	授業規律期間のシステムを確立できるように実施期間を設定し回数を増やす。
		1学年	授業の学年巡回指導 授業の始めと終わりの挨拶指導を実施する。	授業規律指導者前月比1未満 →授業規律指導対象者2学期17名	C	継続することで、効果を発揮
		2学年	学年団の巡回指導を行う。	授業規律指導者0人 →授業規律指導対象者年間のべ22名	C	学年、授業担当の指導の充実が課題
3学年	チェック(カード)を受けた者は職員室まで報告に来させ指導、学年団の巡回指導を行う。	生徒指導部による授業規律指導者0人 →生徒指導部による授業規律指導2名	B	1回でもチェックを受けた者を指導するのは有効で続けていく。		
3	教務部	・研究授業の実施と生徒による授業評価の導入	2学期の授業公開週間において、代表者による研究授業を実施する。また、教科横断的な授業研究会にも取り組みたい。さらに、生徒による授業評価案の検討を行う。	全教諭、常勤講師、非常勤講師が必ずどれかの研究授業を参観できるように計画する。また、今年度中に生徒による授業評価案を試行する。 →11月18日～22日までの授業公開週間において、理科・家庭・情報・体育の4教科で研究授業を行い、翌週の26日にワークショップ型の授業研究会を実施した。教科の枠を超えて有意義な討議を行った。	A	2学期の授業公開週間において、英語・芸術・数学・地公の4教科で研究授業を行い、ワークショップ型の授業研究会を実施する。初任者研修も、同じ形式で授業研究してもらえよう検討してもらう。
		1学年	各教科毎に研究授業を実施する。	学期に1回以上教科で行う。	B	教科だけに任せず、学年からも依頼することが必要
2学年	各教科毎に研究授業を実施する。	月1回の実施 →授業公開週間を活用	B	学期に1回、各教科で実施できるように検討		
4	進路指導部	・計画的な各種補習の展開(指名補習と進学希望者補習)	模試の結果を各学年や全職員にフィードバックし、進路実現にむけた進学補習計画に役立ててもらいように働きかける。	年間1～2回、模試結果や模試活用方法を全職員に伝達講習する。 →Benesse担当者に招聘し、基礎力診断テストの結果をまずは職員全体に研修を実施した。次に学年団ごとに模試の受け方や推薦入試の傾向についての研修を実施した。	B	今年度実施した教職員向け研修を継続しながら、Benesse より積極的に進学情報入手し、該当学年へフィードバックの拡充を目指したい。
		1学年	漢字、英語、ブラッシュアップの指名補習を行う。	全員出席 →指名補習を実施し提出物を完成させた。	B	合格への意識向上に有効
		2学年	木曜7時間目に理系、総合計、特色類型全員の指名補習、文系希望者補習を実施する。	欠席者0人 →3学期には就職希望者補習も実施。無断欠席者0人	B	欠席者0名で、継続的に実施
3学年	定期考査1～2週間前から指名補習を実施する。 4月から平日補習を実施する。(就職・医療看護数学は指名補習、英語・現国・古典・数学Ⅰ・数学Ⅱ・日本史・世界史は希望者補習)	欠点者0人 進路実現100% →4月から就職・医療看護数学は指名補習、英語・現国・古典・数学Ⅰ・数学Ⅱ・日本史は希望者補習を実施 2学期から生物・化学の希望者補習を実施	B	学力定着の工夫がさらに必要		
〔2〕四年制大学・短大進学率アップ(卒業生の60%)						
5	進路指導部	・計画的・継続的なキャリア教育の実施と進路ガイダンスの工夫・改善(専門学校から四大、短大へシフトさせる指導)	昨年度計画したキャリア教育を具現化するとともに、大学へ目を向ける指導を学年と協力しながら行う。	大学・短大進学者を学年全体の55～60%を目指す。 →現在、指定校推薦者が51名(うち、四大32名、短大16名、医療系専門学校1名)、AO・公募推薦進路決定者88名(うち四大41名、短大6名、医療系専門学校9名)である。現在、大学進学者73名、短大進学者22名医療専門学校進学者10名、その他の専門学校進学者35名の計165名が決定している。(1/20現在)	B	大学・短大進学者が学年全体の55%にまで伸びていることを踏まえ、今後は進学先の精選を進め、また、生徒のニーズに合うように進路保証をしていくことを目指したい。
		1学年	HR、学年集会で進路について学べる。	大学・短大希望者60% →大学短大進学希望者145名(53%)	B	個々の進路への意識を高めるのに有効
		2学年	夏季インターンシップにおいて、大学・短大・専門学校希望者は全員、大学見学を実施する。	大学・短大希望者60% →現在約65%	B	大学・短大進学希望者に個別面談の充実
3学年	担任による個人面談を3回以上実施進路別にチューター制で個人面談を実施する。	大学・短大希望者60% →学年で面接週間をもうけ、総合的な学習の時間・LHRや放課後に、少なくとも3回実施。2学期は水曜日を除きほぼ毎日10人余りの生徒を面接指導(AO入試・推薦入試対応)指定校推薦者の進路検討会と大学進学者の進路検討会を実施し、生徒個々について情報交換を行った。	B	生徒個々の進路検討会は有効で、さらに充実していく。		

基礎学力を定着させるための学校としての工夫と努力は評価できる。教職員の授業力養成のために、さらに研鑽を積み、生徒の学習意欲と理解度の向上を目指した取組が必要である。評価「C」については、真摯に受け止め、課題を明らかにして、改善を図る必要がある。

高校3年間を見通したさらに計画的、継続的な指導を期待する。

平成25年度重点項目	部・学年等	具体的取り組み	評価指標 →実施状況(最終報告)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係者 評価委員の 提言	
6	・高大連携の充実と積極的なオープンキャンパスへの参加	進路指導部	体験学習を実施し、積極的な大学オープンキャンパスに参加させ、大学へ目を向けさせる。	体験学習において、大学見学者を学年全体の65～70%の参加率を目指す。 →大学見学者62%、トキメキ(専門学校)15%、ワークキャンプ8%、ふれあい看護体験7%、就業体験8%。体験学習全体の満足度90%、今後の学校生活に83%のものが生かせると答えており、成果を得た。	A	今年度は体験学習の流れの基本形をつくりあげ、多くの成果を得ていることから、次年度はさらにより効果的な体験ができるように計画するとともに進路決定に役立てることを目指したい。	
		2学年	夏季高校生就業体験事業を実施する。	無断欠席者0人 →欠席者5名	B	成果の発表を1年生にすることを継続	
		3学年	春・夏のオープンキャンパス・大学の下見を実施する。	100%実施 →推薦を受ける条件としていることもあり、進学希望者はほぼ100%の生徒が実施	B	オープンキャンパス参加は進路実現に大いにプラスとなり、100%実施を目指す。	
7	・医療・看護・保育類型の教育活動の工夫と進路指導(類型推進プロジェクト委員会)	1学年	クラス全体で医療・看護・保育系の進路学習を行う。	医療・看護・保育系への進路希望者100% →進路学習を実施した。	B	医療・看護・保育への関心を高めるのに有効	体験学習が進路指導にうまく反映されている点は評価できる。さらに、発展的課題に取り組んで欲しい。
		3学年	医療看護模試の実施 大学・専門学校の難易度・入試傾向の研究と指導を行う。	進路実現100% →医療看護模試を3回実施 進路検討会議で情報交換を行った。	B	医療看護希望者は別メニューで指導するのは有効で、さらに工夫をしていく。	
8	・指定校推薦の活用と計画的・継続的な補習の充実	進路指導部	生徒のニーズに応じた指定校枠を新規開拓を目指し、生徒の進路実現に対応する。	現在より、2校以上を目指す。 →大手前学院大学と高大連携を結び、大幅な定員増を果たした。また、神戸学院大学の法学部2名増、神戸学院大学の新設(現代社会学部)で2名枠を受けた。	A	今年度は大学が76校397名、短大が38校124名、合計114校521名もの指定校枠を受けた。来年度以降は、生徒一人ひとりに合わせた進学先の検討をさらに充実させ、進学実績の向上につなげたい。	
		3学年	生徒のニーズに応じた指定校を紹介し、指定校枠の活用を図る。	難関大学枠は100%活用 →51名が指定校推薦を活用。4月から医療看護数学は指名補習、英語・現国・古典・数学I・数学II・日本史・世界史は希望者補習を実施。2学期から生物・化学の希望者補習を実施。入試に面接がある生徒は、面接ノートを活用し、少なくとも3回の面接指導を受ける。	B	指定校枠は大いに活用できたが、さらにはもっと早い時期(1年時)からの指導が必要	
[3] 就職希望者(学校斡旋)の全員内定							
9	・就職希望者の正しい職業観の確立と適性の見極め	進路指導部	学年と連携を図りながら、早期に希望者との継続的面談ならびにハローワークなどの外部機関などと協力し合い、生徒自身が正しい職業観や適性を熟考できる機会を増やす。	面談を各生徒に対し最低でも2回実施する。また、ハローワーク主催のガイダンスを2～3回実施する。 →学校斡旋希望者の各生徒と3回以上の面談を実施。また、ハローワーク主催で1回のガイダンスを行った。 1回目の就職受験が不調であった生徒への継続的な面談と適職探しのカウンセリングを細やかに実施した。また、内定者についても丁寧かつ徹底した事後指導を行った。	B	今年度の準備もかなり行ったが、今年度の傾向や不調原因を分析し、さらに、丁寧な指導を行うことを目指したい。	生徒個々に応じたていねいな指導がなされていることは評価できる。
		3学年	進路指導部と連携を図りながら、進路HRや継続的面談を通して、生徒の適性を見極め、就職に対する意識づけを徹底させる。	斡旋者就職内定100% →現在、学校斡旋就職内定者は19人、未定者1人	B	2年3学期より指導を具体的にスタートさせたが、意識の掘り起こしはもっと早い時期(1年時)から行うことが望まれる。	
10	・面接指導の徹底と継続指導の確立及び就職者補習の計画的・継続的な実施	進路指導部	面接ノートを活用しながら早期に面接に向けての指導を開始し、就職希望者集会を継続的に行うことで、就職に対する意識づけを徹底させる。また、計画的・徹底的な面接指導を行う。	週1回の就職補習および月1～2回の就職者集会を実施する。 夏季補習では、複数回の面接練習に加え、外部機関を活用した面接練習を1～2回実施する。 →週2回の就職補習および月1・2回の就職者集会を実施。夏季補習では、15日間の面接練習を実施。1人につき、25回程度の面接練習を行った。それに加え、ハローワークの方々からの面接練習および指導、9月初旬に管理職・PTAに協力を仰いだ仕上げ面接を行った。2回目以降の就職試験受験のための面接練習も細やかに実施した。	A	今年度のノウハウをさらにバージョンアップするとともに、キャリア教育を行う科目「総合」の中でより充実した内容と時間を確保し、成果をあげることを目指したい。	
		3学年	4月から毎週月曜の就職者補習を開始し、小テスト等を行い不合格者は火～金に呼び出し指導、面接ノートを活用し計画的・徹底的な面接指導を行う。	面接ノートの完成 →4月から毎週月曜に就職希望者は全員指名補習を実施。 面接練習は少なくとも20回実施し、面接ノートを全員が完成させる。	B	面接ノートの活用と20回を超す面接練習は有効であったが、さらに学力の向上への工夫が必要	

平成25年度重点項目	部・学年等	具体的取り組み	評価指標 →実施状況(最終報告)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係者 評価委員の 提言	
【4】身だしなみの指導の徹底と登下校のマナー改善							
11	・全教職員の意思統一が図れた指導の確立と身だしなみの指導の徹底(カード指導強化)	生徒指導部	服装カード指導を継続し、身だしなみを整える。	生徒指導部カード指導人数を学期に2名以内 →カード指導人数は学期平均1名であった。	B	カード指導を徹底し、研修会によって職員間で指導の差が出ないようにする。	規範意識の向上を目指し、より計画的でねばり強い指導を期待する。 今後も、学校全体での継続的な取組が大切である。
		1学年	服装指導期間を有効に活用し、自発的に正しい服装を身につけさせる。	生徒指導部による服装指導者0人 →11月6日現在指導対象者のべ14人	C	服装についてのルールの認識に有効	
		2学年	服装指導期間を有効に活用し、自発的に正しい服装を身につけさせる。	生徒指導部による服装指導者0人 →年間のべ84人、生徒指導部より指導された者は1名	B	正しい服装の着こなしについて、価値観の向上	
		3学年	カウント制で服装指導を徹底し、自発的に正しい服装を身につけさせる。	生徒指導部による服装指導者0人 保護者来校による服装指導者0人 →2学期に生徒指導部より指導された者は延べ5人。保護者来校のうえ指導は0名	B	職員の共通理解に立った日々の指導・その場での指導を積極的に行う。	
12	・下校時の指導(深江駅周辺)と登下校時の食べ歩きやゴミのポイ捨て禁止指導の徹底	生徒指導部	全職員で割り当てを決め、毎日放課後立ち番指導を行う。	苦情件数を0にする。 →苦情件数は月平均2件であった。	C	苦情件数を0にする。	部活動の活性化を期待する。
		1学年	輪番制の下校指導を、学年団全員で実施する。	指導対象者0人	B	下校指導で、事前に問題行動の芽を摘む。	
		2学年	輪番制の下校指導を、学年団全員で実施する。	指導対象者0人 →くり返しのマナー指導を2名に実施	B	通報があつてからではなく、下校指導の充実をはかる。	
		3学年	輪番制の下校指導を、学年団全員で実施する。	指導対象者0人 →連絡を受け、学年でマナー指導した者は延べ4人	B	その場での指導とともに、全生徒に対しても具体例を挙げ繰り返し指導する。	
【5】部活動の活性化							
13	・1学年部活動全入制の充実・改善(顧問と担任の連携指導)	生徒指導部	入部後に参加率の低い生徒に対して、生徒指導部・顧問・担任で連携を図って指導を行う。	入部率を70%以上で保つ。 →入部率が2学期には69%であったが、3学期では60%になった。	C	クラブの継続ができる指導を組織的に行う。	部活動の活性化を期待する。
		1学年	生徒指導部との連携による部活動の活性化させる。	部活動加入率70%	C	入部率を高めることは学校全体の活性化にもつながる。	
【6】欠席・遅刻の減少							
14	・学年指導の確立と家庭との連携強化(家庭連絡の徹底)	生徒指導部	特別指導における学年指導プログラムを家庭との連携のできるものとして確立させる。	→特別指導を年間で20件以内にしたいが、現在(H26.1.20)19件である。	C	特別指導プログラムを検証し、特別指導も10件以内に行えるよう組織を作る。	さらに家庭との連携を密にし、継続的な指導していく必要がある。 評価「C」については、課題を明らかにして、真摯に受け止め、改善を図る必要がある。
		保健部	月1回、保健部会を開催し、生徒の情報交換および学年との連携を図る。	必要に応じ、担任・キャンパスカウンセラー・家庭・関係諸機関と連携を取り、心身への配慮が必要な生徒の早期発見に努める。 →学年との連携を図り、後手にまわらないように努めた。	B	次年度も専任だけの会議、保健部会を頻繁に開催して、お互いに生徒の情報を共有し、より緊密に連携を進めていきたい。	
		1学年	学年通信の発行 無断遅刻・欠席生徒の保護者への連絡を徹底する。	保護者連絡100% →学年通信16号発行、保護者連絡は完全実施	B	保護者の協力を得るのに有効だが、見てもらう工夫も必要	
		2学年	月間遅刻指導を学年で段階的に実施する。(月3回で指導及び面談)	欠席5人以内、遅刻5人以内(1日) →年間欠席7.5人遅刻6.7人(1日平均)	B	指導方法の工夫により数値目標の達成へ。	
		3学年	無断遅刻・欠席者は直ちに家庭に連絡、遅刻は月3回で指導及び面談を行う。	無断遅刻・欠席0人 無遅刻・無欠席のクラスが年間で延べ200日 →10月になり、月3回以上遅刻で学年指導した者が15人と増加した。保護者来校のうえの指導は0名。	C	進路決定による気持ちの緩みがでたが、個々に次の課題を持たせる工夫が必要	
15	・遅刻0週間の徹底	生徒指導部	週間の遅刻指導を、月間の遅刻指導として全学年で取り組めるようにしていく。	週間の遅刻者を全学年で10人以内に、月間の遅刻指導者を40人以内にする。 →月間の遅刻指導者は全体平均26人である。	B	遅刻0週間を月間遅刻指導に移行させる。	基本的な生活習慣の確立に有効 基本的な生活習慣の状況を記録にまとめさせる。 基本的な生活習慣の確立と自律によるその継続を意識させる工夫が必要
		1学年	日常的に無遅刻を目指す指導を行う。	遅刻者0 →遅刻者多数	C	基本的な生活習慣の確立に有効	
		2学年	月間遅刻指導と並行して実施する。	指導対象者0人 →毎月3～4名を指導	C	基本的な生活習慣の状況を記録にまとめさせる。	
		3学年	週2回で学年指導を行う。	指導対象者0人 →毎回、金曜日の放課後に2～4人を学年指導	C	基本的な生活習慣の確立と自律によるその継続を意識させる工夫が必要	
【7】転退学者の減少							
16	・兵庫型体験教育「東灘高版」の充実(目標や夢を持たせる)	1学年	HR・面談(シート)を活用してキャリア教育を充実させる。	進路変更者10人未満 →1月20日現在、進路変更6名	B	夢の実現のため継続	体験学習の効果を最大限に発揮させる工夫を期待する。
		2学年	夏季体験学習を進路指導部と連携し、学年をあげて積極的に推進する。	→大いに効果あり。欠席者数減少。	B	より効果的なものになるように更なる改善	
		3学年	インターシップ、春・夏のオープンキャンパス、大学見学・下見を実施する。	100%実施 →推薦を受ける条件としていることもあり、ほぼ100%の生徒が実施、病気も含め進路変更者6名。	B	夢に向かって具体的な一歩を踏み出す体験と、その自分に対する自信を持つよう指導していく。	

	平成25年度重点項目	部・学年等	具体的取り組み	評価指標 →実施状況(最終報告)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係者 評価委員の 提言
17	・基本的な生活習慣の確立(欠席・遅刻指導と連動させた指導)	保健部	自らの健康課題に気づき、心身の健康の保持増進が図れる実践力を育てる。	保健部会を定期的に開催するとともに、来室した生徒について学年との情報交換を密に行う。 →保健委員会を折に触れて開催し、保健委員が主体的に活動するようにした。全校生徒を対象に朝食に関するアンケートを行い、学校保健委員会で発表した。	B	文化祭での献血キャンペーン活動、保健委員会での発表、全校生徒へのアンケート等、自ら健康作りに取り組む姿勢を養いたい。	日々の地道な努力は評価できる。
		1学年	家庭との連絡を密にすることによる早期の情報収集する。	長期欠席者0 →長期欠席者0名	B	学校、家庭、専門機関との連携をさらに深めることが必要	
		2学年	1ヶ月に欠席3日以内、遅刻3回以内を基準に、上回る生徒への生徒面談及び保護者への連絡を行う。	基準を上回る生徒0人 →長期欠席者0名	B	家庭との連携、個別面談で早期発見、早期改善	
		3学年	1ヶ月に欠席3日以内、遅刻3回以内を基準に、上回る生徒への生徒面談及び保護者への連絡を行う。	基準を上回る生徒0人 →長期欠席者3名	B	保護者の協力をさらに具体的に得て、基本的な生活習慣の確立を図る。	
18	・分かる授業の工夫と細やかな教科指導の実施(個別指導)	教務部	研究授業実施にあたり、教科を超えた共通のテーマについて、本校生徒の実情に合わせてどのようにすれば学習効果が上がるのかを検討する。	2学期の授業公開週間において議論できるように、夏季休業までに学力向上委員会で具体案を検討する。 →授業に受身である生徒が多いので、本年度は「生徒が主体的に学習活動する授業とは？」を共通のテーマにして、どんな工夫をすれば学習効果が上がるのかを研究授業を通して検討した。	A	今年度から始めた授業研究を「生徒が主体的に学習活動する授業とは？」として、来年度も2学期の授業公開週間において継続して行いたい。	
		3学年	定期考査1～2週間前から個別指導を実施。学年団の巡回指導を行い、授業に集中する雰囲気作りをする。	巡回指導は毎時間担当を決め実施 →放課後の居残り学習の質問に、常時、教室や職員室等で回答	B	授業を大切に学習していく雰囲気をクラス全体に広げていく。	
【8】掃除の徹底							
19	・日々の清掃指導の徹底(掃除監督者の指導の徹底)	総務部	監督者も指示するだけでなく、生徒とともに取り組む姿勢を示す。清掃道具の不足状況などの調査を行い、より清掃環境を整える。	→実施できた。より学校の美化に努める。	B	学校の美化のためにどんな働きかけができるのか話し合う。	
		3学年	当番制でサボった者は指導し翌日清掃をさせる。	サボる者0人 →別途指導を受ける者が固定化している。	B	サボる者には個別指導を徹底する。	
20	・窓ガラス美化の徹底(重点化清掃の実施・清掃コンテスト等の工夫)	総務部	定期的な巡回により正確に現状を把握し、全職員と全生徒に窓枠優先の清掃を呼び掛けていく。窓ふきだけでなく、窓の棧をきれいに拭くことにも力を入れてもらえるように啓発活動に努める。	→毎回職員への呼びかけや啓発活動を行っている。	B	啓発活動とともにテーマを決めて清掃に取り組んでいく。	学校全体で、美化に対する意識の高揚が見られ、校内の美化が進んでいる点は評価できる。
		3学年	大掃除のときは、特に窓ガラス担当を決め清掃を徹底する。	サボる者0人 →掃除分担を明確にすることは、効果あり。	B	清掃分担を明確にし清掃意識を高める。	
21	・定期的・効果的な大掃除の工夫と実施	総務部	各分担区域において、優先的に窓枠の雑巾がけをしてから床の掃除にかかる。より効果が上がるようにその都度テーマを決めてポイントを押さえる。	→尚一層声掛けに努めたい。	B	より効果が上がる清掃道具などを用意し、今まで以上に活動しやすい環境を作る。	
		3学年	個人ごとに清掃分担を明確にして、責任を持って清掃するよう指導する。	サボる者0人 →掃除分担を明確にすることは、効果あり。	B	清掃分担を明確にし清掃意識を高める。	
22	・美化委員の活用(ゴミ分別の徹底とポスター作成etc)	総務部	各教室のゴミ箱に分別の貼り紙をするとともに、分別状況を定期的に点検をさせる。美化委員により清掃活動啓発ポスターなどを作成し、より清掃に力を入れる雰囲気を作る。	学年ごとにポスターを作成し、学期ごとに更新していく。 →美化委員の活用をより具体化し、工夫していきたい。	B	総務部と学年との連携を強めて美化委員を活用する。	
【9】積極的な情報発信							
23	・HPの更新回数増及び定期的な学校だよりの作成と効果的な配布と掲示	保健部	生徒の健康課題等、実態に合わせた保健だよりを発行する。	問診票を記入させ、健康相談活動や個別保健指導により、心身の健康や自身の生活を見直させる。 →文化祭等にて保健委員から健康課題等の展示を作成した。	B	保健委員による主体的な活動を更に進めてゆきたい。	さらに、有効な情報発信に期待する。
		1学年	学年通信を月1回以上の頻度で発行する。	24回以上の発行 →現在11号	B	保護者の協力を得るのに有効だが、見てもらう工夫も必要	
		2学年	学年通信を月1回以上の頻度で発行する。	年間35号の発信 →毎月発信に加え行事等の増刊号で生徒の活躍を発信	B	生徒・保護者が、より関心をもつ方法の工夫	
		3学年	学年通信(みつば)を週1回のペースで発信する。	年間30号の発信 →第3学年で30号(1年から通算108号)発行	B	生徒・保護者が、もっと学年通信に目を通す工夫をする。	

	平成25年度重点項目	部・学年等	具体的取り組み	評価指標 →実施状況(最終報告)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係者 評価委員の 提言
24	・授業公開週間の充実・改善(各学期1回)や学校行事の公開推進	総務部	学校行事の公開推進に努める。	早めに企画運営を進めることで、広報に力を入れる。 →ホームページの更新により、情報伝達に努めた。	B	より広報に努めるために部内の話し合いに力を入れる。	オープン・ハイスクールでは、生徒の言葉で語りかけるといような有意義なふれあいの場が設定されることを期待する。 「開かれた学校」を目指して、さらに工夫して欲しい。
		教務部	授業公開週間において、学外の参観者に授業をより多く見ていただけるよう案内を行う。	学区内の中学校の先生方に参観を呼び掛ける。また、近隣の小中学校のオープンスクールに参加し、継続的な学習指導ができるよう参考にする。 →中学校訪問等の機会を通じて、中学校の先生方にも参観を呼び掛けた。また、中学校のオープンスクールを参観回数を増やすなど、働きかけを考えていきたい。	B	来年度は中学校のオープンスクールの日程を年度当初に把握し、学力向上委員会を中心に積極的に参加したい。また、授業公開週間と同時開催できる行事についても模索したい。	
25	・中高部活動連携の推進	生徒指導部	東灘カップなどのスポーツ大会を地域と連携して行う。	空手道部が地域の道場と連携し一緒に練習等の計画を実施したが、野球、バスケット、バレー等のクラブに広げていきたい。	B	空手道部に加えて、他のクラブも地域の方々を交えた活動を実施する。	
26	・オープン・ハイスクール等の充実・改善(8月・11月)	総務部	早めの運営・広報に努め、昨年以上の参加と、中学生の学校理解に努める。	参加人数は昨年同様、理解についてはアンケート結果の「よく理解できた」65%以上を目指す。 →昨年度以上の参加人数を見ることができた。アンケート結果等より手ごたえは感じているが、65%は到達できなかった。	B	学区改変によって実施方法を変える必要により、効果的な宣伝方法について検討を加えたい。	
[10] 地域貢献活動の充実							
27	・深江浜地域合同防災避難訓練、クリーン作戦の充実・改善	総務部	学年単位で実施することで用具不足と監督不足に対応する。	→学期ごとに各学年がグリーン作戦を行った。また駅前清掃にも着手した。	B	駅前の清掃も駅前施設などに協力いただき、清掃とボランティアを兼ねた活動として続けていきたい。	活動については、大いに評価できる。高校生なりのレベルの高いものを期待する。
		地域貢献事業	地域と連携した合同防災避難訓練を実施する。学期に1回のグリーン作戦を実施する。	深江浜コンビナート全社参加。深江地区自治会参加。消防署ヘリコプター出動。 →合同避難訓練は昨年並みの規模で実施。ボランティアの活動日数10日以上を達成した。	B	深江浜地域合同避難訓練は、課題を解決し、防災マニュアルの改訂とともに、より実効的なものを目指す。	
		1学年	クリーン作戦をとおして、美化意識を高める。	サボる者0人 →雨天のため校内清掃に変更して実施	B	地域貢献の1つとして有効	
		2学年	クリーン作戦をとおして、美化意識を高める。	サボる者0人→3学期に実施	B	美化意識と社会貢献の意識を高める。	
		3学年	個人ごとにクリーン作戦の分担を明確にして、責任を持って美化に勤めるよう指導する。	サボる者0人 →1学期末に実施	B	称揚する等により、意欲的に取り組ませる。	
28	・小学校、幼稚園、高齢者施設等との連携事業の充実・改善	地域貢献事業	小学校へのプール指導補助、幼稚園との芋掘り体験活動や、高齢者とのふれあい活動を継続して行う。	地域貢献人数1500人目標 →地域貢献人数は現状で延べ1200人を達成した。	B	地域の幼稚園、小学校、高齢者施設、自治会等との連携をさらに強め、地域と共にある東灘高校を目指す。	
[11] 特別支援教育・人権教育・生命尊重や心の教育の充実							
29	・特別支援教育委員会(いじめ対応チーム)を効果的に機能させる。	実行委員会	いじめアンケートを適宜行い、組織的にスピーディーに動ける体制を整える。	いじめアンケート報告でいじめ0 →現状は0	B	いじめアンケートを継続し、組織力でいじめ0を保つ。	生徒の内面からの理解に努め、喫緊の課題としてのいじめの早期発見、早期解決のために、備えて欲しい。
		保健部	学年・関係各部と連携して生徒の情報入手し、カウンセラーに相談しながら効果的に機能させる。	気づきシート等を活用し、保健部会等を通じて先生方の協力体制を構築し、適切に対応する。 →加えて先生方に有用な研修を行った。	B	気づきシートの取り組みは周囲から高い評価を得たので、特別支援教育委員会で話し合いながら、いろいろな生徒に適用していきたい。	
		3学年	早期発見に努め、関係部署と連携し支援する。	いじめ0人 →いじめアンケート報告でいじめ0。ホームルーム、学年集会で意識向上を図る。	B	生徒情報を普段から随所でキャッチし、関係部署と情報を共有し、早期対応を心掛ける。	
30	・心のサポート教育相談委員会・保健部・各学年が連携し、命・心の教育の充実を図る。	実行委員会	定期的に委員会を行い、各学年・保健部等情報共有をし、組織的に動けるようにする。	委員会実施回数20回	B	委員会の実施回数20回以上にして、情報共有機会を増やす。	
		保健部	学年・関係各部と連携して実態に合わせた命・心の教育を展開する。	先生方の協力体制を構築し、適切に対応する。 →職員生徒に有用な研修や講演会を実施した。	B	いろいろな会議を通じて学年関係各部と連携を進めて行きたい。また、先生方に有用な講演会を企画していきたい。	
		3学年	早期発見に努め、関係部署と連携し支援する。	不登校0人 →保護者とも面談。必要に応じてカウンセリングを勧める。	B	保護者、関係部署・機関と連携し、具体的支援を行う	

	平成25年度重点項目	部・学年等	具体的取り組み	評価指標 →実施状況(最終報告)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係者 評価委員の 提言
31	・自己実現と共生を目指す人権教育の推進	総務部	講演会や、人権啓発ビデオ鑑賞、『HUMAN RIGHTS』等を利用した人権HRをととして人権尊重の精神を育てる。	今年度人権LHRを企画して、実施する。 →各学年との連携により順次実施予定である。	B	体験的な活動を多く取り入れ、豊かな人間関係を養う指導を工夫したい。	生徒の自己有用感の醸成により努めて欲しい。
		1学年	デートDVについての講演会を企画し、人権意識を高める。	人権侵害発生0件 →12月にデートDV講演会を実施した。	B	今後も続けていくべき	
		2学年	人権教育をLHR年間指導計画の中に位置づけ推進する。	人権侵害発生0件 →ホームルーム、学年集会で意識向上を図った。	B	人権教育指導計画の作成及び効果的指導の研修	
		3学年	人権教育をLHR年間指導計画の中に位置づけ推進する。	人権侵害発生0件 →人権ビデオ「手紙」上映。近畿統一用紙について指導	B	3年間を見越した人権教育指導計画を作成し指導する。	
[12] 勤務時間の適正化							
32	・ノー残業デー、ノー部活デーの徹底	生徒指導部	月曜日をノー部活動デーにする。	週に1日はノー部活動デーにする。 →現状は月に1回ノー部活動デーだが、週に1日はノー部活動デーにしたい。	C	月に1回のノー部活動デーを2回にする。	業務の効率化を図り、健康に留意してほしい。
33	・校内LANの効果的な活用	情報委員会	グループウェアの活用率を上げる。ブログ更新回数を向上させる。	職員のデータ集約にグループウェアを活用 →冬季休業の職員の動静集約、学校自己評価にグループウェアを活用した。ホームページ及びブログの更新はできる限り行った。	B	さらにITを活用し、校務の情報化を推進する。	
34	・各種会議の時間短縮や会議の精選	3学年	学年会議の議題を回覧等で減少させる。	放課後開催3回以内 →月2回程度回覧を利用	B	議題を整理し、さらに回覧・朝の打ち合わせを活用する	